

履修の手引き

1. 教育課程

1) 学事暦

本学では、学則に則り次の2学期に分けています。授業の開始や終了の時期については、年度ごとの学事暦を確認してください。

【前期】 4月1日から9月30日

【後期】 10月1日から翌年3月31日

2) 教育課程

本学では、学則に定められた教育課程に基づいて、次の4つの科目区分を構成し、授業を行います。

科目区分	概 要
基礎科目	現代社会における広範な課題の理解のための学修を行う。
職業専門科目 専門支持科目	人体の構造と機能および心身の発達の理解と、疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進の理解のための学修を行う。 そして、多職種との連携・協働の理解のための学修を行う。
職業専門科目 専門基幹科目	臨床現場で求められる各療法の専門的な知識・技術を修得するための学修を行う。そして、学内で学修した各療法の知識・技術を、臨床現場での学修を通して統合を行う。
展開科目	各療法の関連する他分野に関する理解のための学修を行う。
総合科目	専門職としての大学教育の統合を行う。

各科目は、次の4つの区分のいずれかに該当しており、各専攻の卒業要件に必要な単位数が決められています。

区 分	内 容
必修科目	進級や卒業のため単位修得が義務付けられている科目
選択必修科目	選択科目のうち、各専攻で単位修得が義務付けられた科目
選択科目	各人の意思により選択する科目
自由科目	進級や卒業所要単位数には算入されない科目

教育課程の詳細は、学則の別表に記載しています。各授業科目の詳細は、「シラバス（授業の学修計画）」で確認してください。

2. 単位

1) 単位制度

本学では、授業科目の履修を、単位制度に基づいて行います。単位とは、各授業科目の履修に必要な時間を示す基準であり、試験等に合格することにより、その授業科目の単位の修得が認められます。

2) 授業形態による単位の基準

本学の学則では、各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容

をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものと定めています。

授業は、講義、演習、実験・実習若しくは臨床実習の別があります。1単位の基準は次のとおりです。

科目種別	授業時間
講義および演習	15～30 時間
実験・実習および実技	30～45 時間
臨床実習	45 時間

本学の時間割では、90 分の授業をもって 2 時間の授業とみなしています。授業時間と自学自修時間（予習・復習）の合計が 45 時間で 1 単位となります。授業時間は、あくまでも単位を修得するために必要な学修の一部です。

3) 授業時間数の確保

1 単位を修得するには各授業形態に応じた時間数の授業を受講しなければなりません。本学では、8 回または 15 回の授業を行い、その後、試験を行います。各授業科目の単位数及び授業回数は、シラバスに記載しています。

4) 既修得単位の認定

本学では、本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目履修等により修得した単位を含む）があるとき、これを本学での履修とみなし、単位を与えることができます。認定することのできる単位は、大学で修得したものとみなす単位数と合わせて、60 単位を超えないものとします。入学生からの申請により、本学が審査し授業科目と単位を決定します。

また、社会人で入学した学生については、本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力（本学において修得させることとしているものに限り）を修得している場合において、これを本学での履修とみなし、単位を与えることができます。

既修得単位等の認定を希望する学生は、その年度の履修登録時までに事務局（教務課）で、以下の書類を提出し手続きを行ってください。

- ① 既修得単位等認定申請書（別記様式による）
- ② 成績単位修得証明書
- ③ 既修得単位等の概要を記した授業概要等（シラバス等）
- ④ 勤務先による就業証明書（別記様式による） ※社会人で入学の学生に限る。

3. 履修について

1) 履修登録

授業科目の履修登録は履修規程に従って、本学の指定した期間内に、履修する科目を必ず登録しなければなりません。これを「履修登録」といいます。履修登録をしないと、授業に出席して

試験を受けても、学修成績評価が行われません。履修登録の方法をよく理解し、指定された期間内に手続きをしてください。本学では、キャップ制を取り入れていますので、1年間に履修登録できる単位数は年間48単位以内です。

なお、前期休学および履修登録期間中の疾病等により履修登録ができていない学生は、事務局（教務課）まで問い合わせてください。

※キャップ制（CAP System）とは1年間に履修科目として登録可能な単位数に上限を設ける仕組みです。学修すべき授業科目に対して十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的としています。

2) 履修手続き

授業科目履修登録については、オリエンテーションで配布される「履修登録申請票」に記入し、誤記がないか確認のうえ、事務局（教務課）に提出してください。記入方法については、配布時に説明を行います。

①履修登録は、その年度に履修しようとするすべての授業科目について、4月の指定された期間内に所定の手続きをしなければなりません。

②未登録および重複科目（同一時限）の授業科目については、たとえ授業に出席・受講しても単位を修得することはできません。

③年度内（前期と後期）に、同一科目を履修登録することはできません。

④登録授業科目の追加・変更は、指定された期間以後は原則として認めません。従って、卒業に必要な単位を考慮して、余裕のある登録が必要です。

3) 履修登録科目の変更

必修科目の登録漏れおよび誤り、選択科目の変更を行う場合は指定された期間内であれば履修登録の変更をすることができます。変更は事務局（教務課）で受け付けます。

4) 受講取り下げ

GPAの算出方法により、適切な受講取り下げを行う必要があります。開講期の途中で受講を取り止めた場合でも適切な手続きをしなければ「不可」と評価されることになります。ただし次のことに注意が必要です。

①指定された期間内に、事務局（教務課）で手続きをしてください。

②病気、事故などやむを得ない事情、その他学生の責によらない事由により期間外に受講取り下げを希望する学生については、教務委員会で審議のうえ、認められる場合があります。ただし、連続性の強い科目の取り下げは認められません。

5) 受講者数による授業の開講

履修登録の結果、原則として受講者が少数の場合は、その授業は開講しません。前期又は後期に開講しないことになった授業科目を履修登録した学生については、キャップ制のルールと関連して、一定の期間内に履修登録の変更を認めます。

6) 選択科目における履修者数の取り扱い

選択科目については、各授業科目の履修人数に制限がありますので、必ずしも希望に沿えない場合があります。

4. 授業

1) シラバス

授業科目名、担当教員名、修得単位数、授業の開かれる学期・期間、授業の対象者、授業の目的や到達目標、成績の評価方法・基準、授業時間外の学修内容など、授業を受けて単位を修得するにあたり必要な情報をまとめたものです。各授業回開始までに、必ず Web シラバスにて内容を確認してください。

※シラバスに記載されている「オフィスアワー」は、授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるための時間として教員が予め示す特定の時間帯のことです。オフィスアワーに記載されている曜日・時間帯・連絡方法を確認し科目担当教員へ質問・相談を行ってください。

2) 授業時間

本学の授業時間の区分は、次の通りです。

時 限	時 間
1	8:50 ~ 10:20
2	10:30 ~ 12:00
3	12:50 ~ 14:20
4	14:30 ~ 16:00
5	16:10 ~ 17:40
6	17:50 ~ 19:20

- ① 休講：大学や担当教員の事情等により、授業が休みになることがあります。
- ② 補講：休講などで授業時間数が不足している場合は、別途授業時間を設定します。
- ③ 集中講義：授業科目によっては、特定の期間内に集中して開講されます。
- ④ その他：授業回数の確保のために、土・日・祝日を利用し開講される場合もあります。

上記①～④に関する事項は、すべてポータルサイトでお知らせます。各自注意して確認するようにしてください。

3) 授業を受けるにあたっての留意事項

授業を受ける際には以下の事項を遵守し、本学の学生として常に良識ある行動を心掛けてください。

- ① 授業科目担当者が事前に許可した場合を除き、次の行為を原則禁止します。
 - ・授業の撮影（黒板・スクリーン・実技等の撮影を含む）
 - ・授業の録音・録画
 - ・授業において配付された資料の複写
- ② 授業科目担当者の許可を得て授業を録画・撮影等するときに、教員や受講者が映り込む場合は、必ず全員の承諾を得てください。

- ③ 授業科目担当者の許可を得て撮影・録音・録画・複写・ダウンロードした場合であっても、無断で第三者に転送したり、ネット上に公開したりしてはいけません。これらを行った者は、法的処分、学内処罰の対象になります。
- ④ 講義資料には著作権があります。無断で転送したり、ネット上に公開したりしてはいけません。
- ⑤ 教員からのメールなどでのやり取りを無断でネット上に公開したり、転送したりしてはいけません。

※本学のソーシャルメディア活用ガイドラインを熟読し、責任ある行動を常に意識してください。

4) 授業の出席

授業では、出欠確認を行います。定期試験の受験資格や成績評価を受ける資格に関係しますので、必ず全ての時間に出席することが原則です。遅刻・早退・欠席の取扱いは、次のとおりです。

- ① 遅刻：授業開始から 30 分以内の出席。超えた場合は欠席。
- ② 早退：授業開始から 60 分を超えて退席。満たない場合は欠席。

※遅刻・早退の合計が 3 回をもって、欠席 1 回となりますので、注意してください。

5) 公欠の取り扱い

下記の表①～⑥に該当する理由で、やむなく授業に出席できない場合に「欠席にしない扱い」とする公欠制度があります。公欠願（別記様式第 6-I 号）に必要な事項を記入のうえ、それぞれの場合を証明できる資料を添えて、事務局（教務課）へ提出してください。

但し、公欠が認められた場合であっても、通常の出席扱いにするものではありません。

欠席理由	備 考
① インカレ等大学を代表して競技会に参加している場合	出場期間中（競技会場への移動で、どうしても欠席しなければならない時限を含む）。
② 忌引きの場合 ^{注1}	別表＜忌引きの場合の公欠日数＞参照（帰省等の移動で、どうしても欠席しなければならない場合は、この表の他に移動で欠席する時限を加算できる）。
③ 交通機関がスト等の場合	学生が通常通学している交通機関のストが実施されたり、不通となったりし、他の交通機関が利用できない場合に適用する。
④ 感染症の場合 ^{注2}	学校保健安全法施行規則による感染症。
⑤ 就職試験受験の場合	試験場への移動のため、どうしても欠席しなければならない時限を含む。
⑥ 裁判員制度の場合	裁判所からの呼び出しがあった場合に適用する。
⑦ その他やむを得ない場合	

※注 1 会葬礼状や新聞の死亡広告などを添えてください。

別表＜忌引きの場合の公欠日数＞

死 亡 し た 者	日 数	
	血族	姻族
配 偶 者	10 日以内	10 日以内
一親等の直系尊属（ 父 母 ）	7 日以内	3 日以内
同 卑属（ 子 ）	5 日以内	1 日
二親等の直系尊属（ 祖 父 母 ）	3 日	1 日
二親等の傍系者（兄弟姉妹）	3 日	1 日
三親等の直系尊属（曾祖父母）	1 日	1 日
三親等の傍系尊属（伯叔父母）	1 日	1 日
同居の親族	1 日	1 日

※姻族＝学生自身の結婚によってできた親戚のこと。

※注 2 学校保健安全法施行規則第 18 条、19 条及び学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令に定める伝染病の種類は、以下のとおりです。罹患した場合のみ出席停止の措置が取られます。受診結果にて罹患していなかった場合の受診による欠席は、該当しません。罹患を証明できる医師の診断書や検査結果などを添えてください。

第 1 種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（ベータコロナウイルス属 S A R S コロナウイルス）、中東呼吸器症候群（ベータコロナウイルス属 M E R S コロナウイルス）、特定鳥インフルエンザ
第 2 種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹、水痘（みずぼうそう）、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第 3 種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

これらの感染症に罹患し、出席停止の措置を受けた場合は、医師の診断により治癒あるいは感染の恐れがないと認められるまでは、大学に登校することはできません。登校許可日については感染症ごとに異なりますので、医師に確認するようにしてください。

6) 警報発令時などの授業および定期試験等の取り扱い

本学では、特別警報又は暴風警報が発表された場合に、学生の事故の発生を防止するため、授業および定期試験等（以下「授業等」という。）の取扱いを、以下のとおり定めています。警報等の発表・解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道で確認してください。

なお、休講の判断は、午前 7 時から午前 8 時 30 分までは学生自身により、午前 8 時 30 分以降は、ポータルサイトにより周知します。

また、休講となる恐れがある前日にも周知することがありますので、必ず確認するようにしてください。なお、学外実習については別途指示します。

警報の状況	授業等の取扱い
午前7時の時点で発表	午前の授業等は休講
午前11時までに解除	午後の授業等は行う
午前11時の時点で発表	午後の授業等は休講
授業開始後に発表	状況に応じて、大学が判断する

《対象警報（以下のいずれか一つ以上の発表）》

①特別警報（高潮および波浪を除く。） ②暴風警報

《対象地域》

土佐市および学生の居住地

- ※1 学内にいるときに特別警報などが発表され、帰宅することにより「生命・身体への危険が生じる恐れがある」と大学が判断した場合には、安全が確認できるまで大学に待機を命じる場合があります。
- ※2 通学途中に上記の特別警報などが発表された場合は、安全を一番に考え、登下校が可能かどうか自主的に判断し、状況によっては通学を控えてください。
- ※3 その他の気象警報発表時は原則として休講としません。但し、公共交通機関（JR：土佐山田－伊野間、須崎－伊野間）の運行状況により休講とする場合があります。なお、休講とならない場合であっても、居住地域等の状況によっては、身の安全を最優先する行動をとってください。また、休講となった場合は、補講や定期試験代替日実施などの措置を取ります。

5. 試験

1) 試験

大学での試験は、シラバスの到達目標に、どの程度達しているか確認する目的で行われます。定期試験は、原則として各学期末に一定期間にわたって実施されますが、期間外に試験を行う場合もあります。試験の取扱いについては、試験規程を確認してください。

① 定期試験

試験日・時限および教室は、試験開始の2週間前に発表される試験時間割で確認してください。試験期間中に自然災害などで試験が実施できない場合は、代替日として土・日・祝日に実施することがあります。最終授業後に提出するレポートを定期試験に変えることがあります。

② 追試験

定期試験をやむを得ない事由で欠席した者に対して行う試験です（試験規程第8条参照）。定期試験を欠席し、追試験の受験を希望する者は、「追試験願」、「証明書」等を添えて追試験を願ひ出すことができます。

追試験については、受験が認められた者（試験規程第8条参照）はポータルサイト等により発表されますので、「試験申込書」に手数料1,000円（1科目につき）を添えて教務課で手続きを行ってください。

③ 再試験

履修登録された科目の中で成績が合格点に達しなかった科目について、再試験を願ひ出るこ

とができます（試験規程第9条参照）。この場合、指定された期間内に「再試験願」と「試験申込書」に手数料3,000円（1科目につき）を添えて教務課で手続きを行ってください。

※試験規程第3条に該当する者および不正行為を行った者の受験は認めません。

2) 受験資格

定期試験および成績評価を受けるためには、以下の条件が必要となります。

- ① 授業料その他納付金が完納されていること
- ② 受験する科目の履修登録がされていること
- ③ 受験する科目の出席時間数が総時間数の3分の2以上であること

ア. 授業回数 8回の場合：6回以上出席が必要

イ. 授業回数 15回の場合：10回以上出席が必要

ウ. 授業回数 23回の場合：15回以上出席が必要

エ. 授業回数 30回の場合：20回以上出席が必要

※ 公欠は、欠席回数に含めない。ただし、欠席回数と公欠回数の合計が総授業回数の2分の1を超えた場合には、当該授業科目の単位認定を行わない。

- ④ 学生証の呈示を行うこと

学生証を忘れた場合は、事務局（教務課）にて当日有効の仮学生証発行手続きを行い、使用してください。当日の試験が終了したら、直ちに仮学生証を事務局まで返却してください。

3) 受験にあたっての注意事項

以下の事項をよく読んで、遵守してください。

- ① 試験場では、すべて監督者の指示に従ってください。
- ② 試験は厳正な態度で臨み、不正行為や不正行為と思われる紛らわしい行為をしないでください。
- ③ 本人と照合を行うため、受験に際しては必ず学生証を監督者から見える位置に呈示してください。
- ④ 試験時の座席は、監督者の指示に従ってください。
- ⑤ 試験開始後30分以上遅刻した学生は、受験を許可しません。また、退室は試験開始後30分経過し、監督が認めた場合に許可します。原則、一度退室した者の再入室は認めません。
- ⑥ 所持品（教科書・ノート・ファイル等）はすべてカバンに入れ、自身の椅子の下に置いてください。※持ち込みが許可された教科書・ノート・資料等を除く。
また、携帯電話、スマートフォン・腕時計型端末等の通信機能を有する電子機器を時計として使用することは、一切認めません。 **電子機器を所持する場合は電源を切り、机の上に画面を上にして置いてください。電源を切っていない場合は、不正行為とみなす場合があります。**
- ⑦ 答案記入は、特に指示のない限り黒鉛筆又はシャープペンシル（HB）とします。答案用紙はたとえ白紙でも学籍番号・氏名を記入して提出しなければなりませんので、室外に持ち出さないでください。また、問題用紙の扱いは、監督者の指示に従ってください。
- ⑧ 受験後は、速やかに試験場から退出してください。また、他の試験場の妨げとなる行為は行わないでください。
- ⑨ 試験がレポートによって行われる場合には、指定された提出先に締め切り日時を厳守して提出

してください。

- ⑩ やむを得ない事情により定期試験を受けることができなかった者は、別途ポータルサイトの指示に従って追試験の手続きを行ってください。
- ⑪ その他試験に関する変更等の詳細については、その都度ポータルサイトに掲載しますので、見落とし、見誤りのないように十分注意してください。

<試験における不正行為について>

試験における不正行為者に対しては、厳重な処分を行います。処分により所定の年限では卒業できないことがあります。主な不正行為については、試験規程第10条第2項(Ⅰ)～(Ⅱ)を確認してください。

4) 成績評価

試験の結果は、シラバスにある「成績評価の方法および基準」によって評価されます。また、その評価方法や基準は、各授業担当教員によって異なります。成績は原則として、試験・レポートなどを総合して下記の基準で評価されます。合格点に達した場合に、当該授業科目の単位を認定します。

判定	評価	評点	内容
合格	S	90点から100点	目標を十分に達成し、特に優秀な成果を収めた
	A	80点から89点	目標を十分に達成した
	B	70点から79点	目標を達成した
	C	60点から69点	目標に最低限度達成した
不合格	D	59点以下	目標に及ばなかった
認定	認定	-	本学以外で修得した科目

5) 成績通知

履修した授業科目の成績は、ポータルサイトおよび書面にて学生本人と保護者に通知します。

6) 成績評価に対する異議

成績評価で、採点の誤記入や、成績評価の方法がシラバスと異なっていた場合など、自身の成績に異議がある場合は、事務局（教務課）にて異議申立てを受け付けます。これは、厳格な成績評価を行うための制度です。異議申立て期間は、別途周知します。

6. 臨床実習履修要件

本学では、臨床実習の各科目をそれぞれの当該年次に配置しています。臨床実習内容の詳細は、臨床実習に関するオリエンテーション時にて、別途配布する資料で説明します。

第3年次の臨床実習科目（理学療法臨床実習Ⅱ（評価実習）・作業療法臨床実習Ⅱ（評価実習）・言語聴覚療法臨床実習Ⅱ（評価実習））を履修することができる前提条件は、2年次までに修得しなければならない全ての科目を修得済みであることが必要となります。

第4年次の臨床実習科目（理学療法臨床実習Ⅲ（総合実習）・作業療法臨床実習（総合実習）・言語聴覚療法臨床実習Ⅲ（総合実習））を履修することができる前提条件は3年次末までに修得しなければならない全ての科目を修得済みであること及び履修前に実施する「客観的臨床能力試験（OSCE）」に合格していることが必要となります。「客観的臨床能力試験（OSCE）」の詳細については、第3年次前期に別途配布する資料で説明しますので、試験に対する準備として自己学習をしっかりと行ってください。

7. 進級・卒業要件

1) 進級要件

上級年次へ進級するための基準は、以下のとおりです。

<2025年度入学生以降>

- ① 第1年次から第2年次へは、第1年次に配当する職業専門科目（必修および選択必修科目）において、未修得科目が4科目以上の場合、進級することができません。
- ② 第2年次から第3年次へは、第2年次に配当する職業専門科目（必修および選択必修科目）を、全て取得しなければ進級することができません。
- ③ 第3年次から第4年次へは、第3年次までに配当する科目を、すべて取得しなければ、進級することができません。
- ④ 第4年次生については、学則に定める卒業要件単位に達しない者は、留年とします。

<2024年度入学生まで>

- ① 第1年次から第2年次へは、修得単位数に関わらず、進級できます。
- ② 第2年次から第3年次へは、第2年次までに修得しなければならない単位数のうち、未修得単位数が11単位以上の場合、進級することができません。
- ③ 第3年次から第4年次へは、第3年次までに配置している科目の単位を、すべて修得しなければ、進級することができません。
- ④ 第4年次生については、学則に定める卒業要件単位に達しない者は、留年となります。

2) 卒業要件

本学を卒業するためには、4年以上在学し、専攻ごとに定める教育課程に従って授業科目を履修し、所定の単位数以上を修得しなければなりません。各専攻の卒業に必要な最低単位数等は、以下のとおりです。

<2025年度入学生以降>

① 理学療法学専攻

科 目	必 修	選択必修	選 択	合 計
基 礎 科 目	15 単位	1 単位	4 単位以上	20 単位以上
職業専門科目	59 単位	26 単位	1 単位以上	86 単位以上
展 開 科 目	20 単位			20 単位
総 合 科 目	3 単位		1 単位以上	4 単位以上
合 計	97 単位	27 単位	6 単位以上	130 単位以上

② 作業療法学専攻

科 目	必 修	選択必修	選 択	合 計
基 礎 科 目	15 単位	1 単位	4 単位以上	20 単位以上
職業専門科目	58 単位	26 単位	3 単位以上	87 単位以上
展 開 科 目	20 単位			20 単位
総 合 科 目	3 単位		1 単位以上	4 単位以上
合 計	96 単位	27 単位	8 単位以上	131 単位以上

③ 言語聴覚学専攻

科 目	必 修	選択必修	選 択	合 計
基 礎 科 目	15 単位	2 単位	4 単位以上	21 単位以上
職業専門科目	58 単位	28 単位		86 単位以上
展 開 科 目	20 単位			20 単位
総 合 科 目	3 単位		1 単位以上	4 単位以上
合 計	96 単位	30 単位	5 単位以上	131 単位以上

<2024 年度入学生まで>

《理学療法学専攻》

科 目	必 修	選択（選択必修含む）	合 計
基礎科目	13 単位	7 単位以上	20 単位以上
職業専門科目	82 単位	17 単位以上	99 単位以上
展開科目	20 単位		20 単位
総合科目	3 単位	1 単位以上	4 単位以上
合 計	118 単位	25 単位以上	143 単位以上

《作業療法学専攻》

科 目	必 修	選択（選択必修含む）	合 計
基礎科目	13 単位	7 単位以上	20 単位以上
職業専門科目	84 単位	16 単位以上	100 単位以上
展開科目	20 単位		20 単位
総 合 科 目	3 単位	1 単位以上	4 単位以上
合 計	120 単位	24 単位以上	144 単位以上

《言語聴覚学専攻》

科 目	必 修	選択（選択必修含む）	合 計
基礎科目	13 単位	7 単位以上	20 単位以上
職業専門科目	91 単位	5 単位以上	96 単位以上
展開科目	20 単位		20 単位
総合科目	3 単位	1 単位以上	4 単位以上
合 計	127 単位	13 単位以上	140 単位以上

8. GPA制度

本学では、GPA（Grade Point Average）（成績平均値）を活用し、修学指導を行っています。GPAとは学生の成績評価の一種で、全体的な学業達成度を計る尺度となりますので、各自で確認して以後の学修計画に役立ててください。

① GPA値の指標

GPAは「4.5」に近いほど学修状況が良好であることを示し、「0」に近ければ効率的な履修ができていないなど、学修状況に何らかの問題が生じている可能性を示します。

② GPAを利用した学修指導

学修状況に問題が生じている場合には、以後の学修改善に繋げるため、GPAが1.5未満の場合は、学修指導を行います。

成績評点とGP（Grade Point）

成績評点	100	90	80	70	60	0～59
GP	4.5	3.5	2.5	1.5	0.5	0.0

※成績評点の1点が、GPの0.1となります。

GPAは、定められた算出方法により計算されます。

9. 学修ポートフォリオ

学修ポートフォリオとは、本学における学修成果や学修の過程で習得できたこと、また自己の課題等を記録するものです。学期末には自己の成長を振り返って、来学期の学修計画に繋げるものです。本学における学修計画だけではなく、将来の進路選択の参考とするために活用します。各専攻の専任教員が、この記録をもとに助言・指導を行います。

10. カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連性を示したものです。各授業科目が卒業までに身に付ける能力に関して果たす役割を示しています。

11. ナンバリング

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。

受講する科目がどのような水準であるのかなどを示し、履修の手助けをするものです。

本学では、すべての授業科目にナンバリングを付し、シラバスに記載しています。

12. 主要授業科目

学位を取得するにあたり、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を踏まえ、達成すべき能力を育成するために必要な科目です。

本学では、専門職として達成すべき能力を育成するために必要な科目を主要授業科目とし、該当する科目をシラバスに記載しています。

カリキュラムマップについて

各授業科目がどのディプロマ・ポリシーに該当しているかを示しています。

該当する項目に「○」が付されています。

共通科目

DP①	専門知識・技術の活用力 専門職として必要とされる教養、専門的な知識や理論、技術、態度を修得し、状況に応じて総合的に活用することができる。
DP②	コミュニケーション能力 対象者と円滑なコミュニケーションをとることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、社会および地域のニーズに対応できる知識と柔軟な協調性を身につけ、多職種との連携・協働を行うことができる。
DP③	生命の尊厳と人格を尊重した実践力 対象者が持つ背景や価値観の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができる。また、実践場面において如何なる場合でも、専門職としての役割を倫理的に判断し、行動することができる。
DP④	問題発見・解決力 対象者の問題や課題の解決に向けて、必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、根拠に基づいた適切な方法を選択・計画し、安全かつ的確に行動することができる。
DP⑤	自律的で意欲的な態度 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として医療の進歩や社会のニーズの変化に対応できる専門技術や知識を修得するために、生涯にわたり探求心をもち自己研鑽を継続することができる。

理学療法学専攻科目

DP・P①	理学療法士として必要な基礎的知識、技術を有し対象者にも自らにも安全かつ良質な理学療法を実施することができる。
DP・P②	理学療法士として必要なコミュニケーション力を有し、多職種間と信頼関係を構築し、連携・協働することができる。
DP・P③	人を尊重し、他者との協調性、および倫理観を持ち、責任ある行動をとることができるとともに地域社会への貢献や対象者の生活能力向上に全力で取り組むことができる。
DP・P④	修得した知識と技術を統合し、対象者のニーズとそれを取り巻く地域社会の状況を踏まえ、妥当かつ論理的に問題を解決することができる。
DP・P⑤	科学の進歩や社会のニーズの変化に対応するために、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。

作業療法学専攻科目

DP・O①	作業療法士として必要な専門的知識と技術を有し、リハビリテーション専門職として、質の高いかつ安全なサービスが提供できる。
DP・O②	問題解決に必要とされるコミュニケーション能力を有し、多職種間と信頼関係を構築し、連携・協働を行うことができる。
DP・O③	対象者を全人的に理解・尊重し、倫理観を持って対象者および家族の生活を支援できる。
DP・O④	生活(作業)を科学とする知識と技術を実践することができ、問題解決に向けて主体的に取り組むことができる。
DP・O⑤	作業療法士の社会的役割を認識し、地域の保健医療福祉の向上に貢献できるとともに、学術的探求と指導的な役割を担うことができる。

言語聴覚学専攻科目

DP・S①	対象者が抱える様々な問題を理解するための知識と技術を有し、それを安全かつ的確に活用できる。
DP・S②	対象者と円滑なコミュニケーションをとることができ、多職種との連携・協働を行うことができる。
DP・S③	言語聴覚障害の多様性を深く理解し、言語聴覚士として倫理的かつ道徳的に判断し行動できる。
DP・S④	科学的な評価と分析、他職種から得られた情報を統合し、対象者の問題解決に向けて対応できる。
DP・S⑤	自らの専門性について主体的に探究し、資質向上のために努力し続けることができるとともに、地域の保健医療福祉の向上にも貢献できる。

区分	科目名	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	単位数	ナンバリング	主要授業科目
基礎科目	人間の探求	心理学	○	○	○		2	CO-A-LE-1	○
		教育学	○	○	○		2	CO-A-LE-1	
		生命倫理	○	○	○		2	CO-A-LE-3	
	社会の探求	コミュニケーション論	○	○	○		2	CO-A-LE-1	○
		社会学	○	○	○		2	CO-A-LE-1	
		リーダーシップ論	○	○	○		1	CO-A-LE-4	○
		国際関係論	○	○	○		2	CO-A-LE-4	
	地域の探求	地域課題研究Ⅰ	○	○	○	○	1	CO-A-LE-2	○
		地域課題研究Ⅱ	○	○	○	○	1	CO-A-AC-3	○
	自然の探求	生物学	○	○	○		2	CO-A-LE-1	
		数学	○	○	○		1	CO-A-LE-1	
		物理学	○	○	○		1	CO-A-LE-1	
		統計学	○	○	○		2	CO-A-LE-1	
		情報処理演習Ⅰ	○	○	○		1	CO-A-AC-1	
		情報処理演習Ⅱ	○	○	○		1	CO-A-AC-1	
	健康の探求	健康科学	○	○	○		1	CO-A-LE-1	
		健康とスポーツ	○	○	○		1	CO-A-AC-1	
	外国語の探求	英語Ⅰ	○	○	○		2	CO-A-LE-1	
		英語Ⅱ	○	○	○		1	CO-A-LE-1	
		英会話	○	○	○		1	CO-A-LE-1	
		中国語	○	○	○		1	CO-A-LE-1	
職業専門科目	基礎医学	医学英語	○	○	○		1	CO-B-LE-2	
		解剖学Ⅰ(総論・神経系)	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○
		解剖学Ⅱ(内臓・脈管系)	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○
		解剖学Ⅲ(骨格系)	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○(P・O)
		解剖学Ⅳ(筋系)	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○(P・O)
		生理学Ⅰ(動物性機能)	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○
		生理学Ⅱ(植物性機能)	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○
		運動生理学	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○(P・O)
		運動生理学実習	○	○	○		1	CO-B-AC-2	○(P・O)
		基礎運動学	○	○	○		2	CO-B-LE-1	○(P・O)
		運動機能学実習	○	○	○		1	CO-B-AC-2	○(P・O)
		理学療法運動学演習	○	○	○		1	CO-B-AC-2	○(P)
		作業療法運動学演習	○	○	○		1	CO-B-AC-2	○(O)
		人間発達学	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○(P・O)
	臨床医学	医学概論	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○(S)
		病理学	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○
		内科学	○	○	○		2	CO-B-LE-2	○
		整形外科	○	○	○		2	CO-B-LE-2	○(P・O)
		臨床神経学	○	○	○		2	CO-B-LE-2	○
		精神医学	○	○	○		2	CO-B-LE-2	○
		小児科学	○	○	○		1	CO-B-LE-2	○
		リハビリテーション医学	○	○	○		1	CO-B-LE-2	○
		臨床心理学	○	○	○		2	CO-B-LE-2	○
		耳鼻咽喉科学	○	○	○		2	CO-B-LE-1 CO-B-LE-2	○(S)
		形成外科学	○	○	○		1	CO-B-LE-3	○(S)
		臨床歯科医学	○	○	○		1	CO-B-LE-3	○
		画像診断学	○	○	○	○	1	CO-B-LE-3	○(P・O)
		臨床栄養学	○	○	○	○	1	CO-B-LE-3	○(P・O)
		臨床薬理学	○	○	○	○	1	CO-B-LE-3	○(P・O)
		救急管理実習	○	○	○	○	1	CO-B-AC-3	○(P・O)
	保健医療福祉の理念	リハビリテーション概論	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○
		社会福祉概論	○	○	○		2	CO-B-LE-1	○
		地域包括ケア論	○	○	○	○	2	CO-B-LE-3	○
		チーム連携論	○	○	○	○	1	CO-B-LE-4	○

区分		科目名	DP・P①	DP・P②	DP・P③	DP・P④	DP・P⑤	単位数	ナンバリング	主要授業科目
専門基幹科目 (理学療法学専攻)	基礎 理学 療法学	理学療法学概論	○	○	○			1	PT-C-LE-1	○
		理学療法学概論演習	○	○	○	○		1	PT-C-AC-1	○
		理学療法セミナーⅠ(PBL)	○	○	○	○		1	PT-C-AC-1	○
		理学療法セミナーⅡ(PBL)	○	○	○	○		1	PT-C-AC-2	○
		臨床運動学	○	○	○			1	PT-C-AC-2	○
	管理 理学 療法学	理学療法管理学	○		○		○	1	PT-C-LE-3	○
		理学療法管理実務	○		○	○	○	1	PT-C-LE-3	○
	理学 療法 評価 学	理学療法評価学	○		○	○	○	1	PT-C-LE-1	○
		理学療法測定実習Ⅰ	○	○	○	○		1	PT-C-AC-2	○
		理学療法測定実習Ⅱ	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		理学療法検査実習Ⅰ	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		理学療法検査実習Ⅱ	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		電気診断学	○		○	○	○	1	PT-C-LE-3	○
職業専門科目 (理学療法学専攻)	理学 療法 治療 学	運動療法学	○		○		○	2	PT-C-LE-2	○
		運動療法学実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		物理療法学	○		○		○	2	PT-C-LE-2	○
		物理療法学実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		理学療法日常生活活動学	○		○	○	○	2	PT-C-LE-2	○
		理学療法日常生活活動学実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		内部障害理学療法実習	○	○	○	○	○	2	PT-C-AC-3	○
		中枢神経障害理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		脊髄障害理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		運動器障害理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		発達障害理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		老年期障害理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		義肢装具学演習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		理学療法技術実習Ⅰ(運動関節学の手技)	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		理学療法技術実習Ⅱ(神経筋促進手技)	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		理学療法技術実習Ⅲ(生体観察手技)	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		理学療法治療学実習Ⅰ(脳障害)	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		理学療法治療学実習Ⅱ(ICU)	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		理学療法治療学実習Ⅲ(スポーツ障害)	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		理学療法治療学実習Ⅳ(障害者スポーツ)	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		臨床理学療法技法演習(PBL)	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
	地域 理学 療法学	地域理学療法学	○		○	○	○	2	PT-C-LE-2	○
		地域理学療法学演習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		生活環境支援理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		機能代償支援理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		ヘルスプロモーション演習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
	臨床 理学 療法 実習 法	理学療法臨床実習Ⅰ	○	○	○	○	○	1	PT-C-PR-2	○
		理学療法臨床実習Ⅱ	○	○	○	○	○	4	PT-C-PR-3	○
		理学療法臨床実習Ⅲ	○	○	○	○	○	18	PT-C-PR-4	○
展開科目	理学 療法 法展 開科 目群	生涯スポーツ論	○		○	○	○	2	PT-T-LE-1	○
		スポーツ心理学	○		○	○	○	2	PT-T-LE-1	○
		学校保健論	○		○	○	○	1	PT-T-LE-2	○
		産業保健論	○		○	○	○	1	PT-T-LE-2	○
		企業論			○	○	○	2	PT-T-LE-2	
		データ分析論			○	○	○	2	PT-T-LE-2	
		経営組織論			○	○	○	2	PT-T-LE-3	○
		マーケティング論			○	○	○	2	PT-T-LE-3	○
		会計学総論			○	○	○	2	PT-T-LE-3	
		経営管理論			○	○	○	2	PT-T-LE-3	○
		起業論			○	○	○	2	PT-T-LE-3	○
総合科目	応用 理学 療法 学	理学療法地域支援実習	○	○	○	○	○	1	PT-S-AC-4	○
		応用理学療法学演習	○	○	○	○	○	2	PT-S-AC-4	○
		理学療法総合演習Ⅰ	○	○	○	○	○	1	PT-S-AC-4	○
		理学療法総合演習Ⅱ	○	○	○	○	○	1	PT-S-AC-4	○
		理学療法総合演習Ⅲ	○	○	○	○	○	1	PT-S-AC-4	○

区分	科目名	DP・O①	DP・O②	DP・O③	DP・O④	DP・O⑤	単位数	ナンバリング	主要授業科目
職業専門科目 (作業療法学専攻)	作業療法基礎	作業療法概論	○	○	○		1	OT-C-LE-1	○
		生活活動と障害	○	○	○	○	1	OT-C-AC-1	○
		基礎作業学実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-1	○
		応用作業学実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-1	○
		作業療法セミナー	○	○	○	○	1	OT-C-AC-1	○
	作業療法管理	作業療法管理学	○		○	○	1	OT-C-LE-3	○
		作業療法管理実務	○		○	○	1	OT-C-LE-3	○
	作業療法評価	基礎作業療法評価学	○		○	○	2	OT-C-LE-2	○
		作業療法評価実習Ⅰ(身体系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		作業療法評価実習Ⅱ(精神・認知系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		作業療法評価実習Ⅲ(発達系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
	作業療法治療	作業分析学	○		○	○	1	OT-C-LE-2	○
		作業分析演習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		基礎作業療法治療学Ⅰ(身体系)	○		○	○	2	OT-C-LE-2	○
		基礎作業療法治療学Ⅱ(精神・認知系)	○		○	○	2	OT-C-LE-2	○
		作業療法日常生活活動学	○		○	○	1	OT-C-LE-2	○
		日常生活支援作業療法実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		義肢・装具作業療法実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		身体障害作業療法実習Ⅰ(中枢神経系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		身体障害作業療法実習Ⅱ(脊髄・運動器系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		身体障害作業療法実習Ⅲ(内部系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		精神障害作業療法実習Ⅰ	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		精神障害作業療法実習Ⅱ	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		老年期障害作業療法実習Ⅰ	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		老年期障害作業療法実習Ⅱ	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		発達障害作業療法実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		高次脳機能障害作業療法実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
	作業療法地域	地域作業療法学	○		○	○	2	OT-C-LE-2	○
		地域作業療法学演習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		生活環境支援作業療法実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		機能代償支援作業療法実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		就労支援作業療法演習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		生活活動マネジメント	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	
		地域支援Ⅰ(余暇活動)	○	○	○	○	1	OT-C-LE-2	
		地域支援Ⅱ(認知症)	○	○	○	○	1	OT-C-LE-2	
	臨床作業療法	作業療法臨床実習Ⅰ	○	○	○	○	2	OT-C-PR-2	○
		作業療法臨床実習Ⅱ	○	○	○	○	6	OT-C-PR-3	○
		作業療法臨床実習Ⅲ	○	○	○	○	16	OT-C-PR-4	○
展開科目	作業療法展開科目群	土佐地域資源論	○	○	○	○	2	OT-T-LE-1	○
		社会的企業論	○	○	○	○	2	OT-T-LE-1	○
		ロボット技術活用論			○	○	2	OT-T-LE-2	
		地域生活とサービス			○	○	2	OT-T-LE-2	○
		精神障害者の援助とネットワーク			○	○	2	OT-T-LE-2	○
		障害者の社会環境と制度			○	○	2	OT-T-LE-3	
		地域防災論			○	○	2	OT-T-LE-3	○
		更生保護制度論	○		○	○	2	OT-T-LE-3	○
		特別支援教育論	○		○	○	2	OT-T-LE-3	○
		対人援助技術論	○	○	○	○	2	OT-T-LE-3	
総合科目	応用作業療法学	作業療法地域支援実習	○	○	○	○	1	OT-S-AC-4	○
		応用作業療法学演習	○	○	○	○	2	OT-S-AC-4	○
		作業療法総合演習Ⅰ	○	○	○	○	1	OT-S-AC-4	○
		作業療法総合演習Ⅱ	○	○	○	○	1	OT-S-AC-4	○
		作業療法総合演習Ⅲ	○	○	○	○	1	OT-S-AC-4	○

区分		科目名	DP・S①	DP・S②	DP・S③	DP・S④	DP・S⑤	単位数	ナンバリング	主要授業科目	
職業専門科目	基礎言語聴覚学 専門基幹科目（言語聴覚学専攻）	言語聴覚障害学総論Ⅰ	○	○	○	○		2	ST-C-LE-1	○	
		言語聴覚障害学総論Ⅱ	○	○	○	○		2	ST-C-LE-1	○	
		失語症学	○		○	○		2	ST-C-LE-1	○	
		聴覚系医学	○		○	○		2	ST-C-LE-2	○	
		音声・言語系医学	○		○	○		2	ST-C-LE-2	○	
		発達心理学	○		○	○		1	ST-C-LE-2	○	
		言語学	○		○	○		2	ST-C-LE-1 ST-C-LE-2	○	
		音声学	○		○	○		2	ST-C-LE-2	○	
		音響学（聴覚心理学を含む）	○			○		2	ST-C-LE-2	○	
		聴覚障害学	○		○	○		2	ST-C-LE-2	○	
		音声障害学実習	○	○	○	○		1	ST-C-AC-2	○	
		学習・認知心理学	○		○	○		1	ST-C-LE-3	○	
		言語発達学	○		○	○		1	ST-C-LE-3	○	
		高次脳機能障害学	○		○	○		1	ST-C-LE-3	○	
		言語発達障害学	○		○	○		1	ST-C-LE-3	○	
		重複障害学	○		○	○		1	ST-C-LE-3	○	
		学習障害・広汎性発達障害学	○		○	○		1	ST-C-LE-3	○	
		機能的構音障害学実習	○	○	○	○		1	ST-C-AC-3	○	
		器質性構音障害学実習	○	○	○	○		1	ST-C-AC-3	○	
		運動障害性構音障害学実習	○	○	○	○		1	ST-C-AC-3	○	
		吃音学	○		○	○		1	ST-C-LE-3	○	
		嚥下障害学実習	○	○	○	○		1	ST-C-AC-3	○	
		補聴器・人工内耳学	○			○	○	2	ST-C-LE-3	○	
		言語聴覚療法セミナーⅠ	○	○	○		○	1	ST-C-AC-2	○	
		言語聴覚療法セミナーⅡ	○	○	○		○	1	ST-C-AC-3	○	
		言語聴覚療法評価学	言語発達障害検査実習	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-2	○
			言語発達障害評価実習	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-2	○
	聴覚検査学		○		○	○	○	2	ST-C-LE-2	○	
	聴覚障害検査実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-2	○	
	失語・高次脳機能障害検査実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○	
	失語・高次脳機能障害評価実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○	
	発声発語・嚥下障害検査実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○	
	発声発語・嚥下障害評価実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○	
	心理測定法実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-2 ST-C-AC-3	○	
	言語聴覚療法		言語聴覚療法技術実習Ⅰ（言語発達障害）	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
			言語聴覚療法技術実習Ⅱ（高次脳機能障害）	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
			言語聴覚療法技術実習Ⅲ（失語）	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3 ST-C-AC-4	○
			言語聴覚療法技術実習Ⅳ（発声発語・嚥下障害）	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3 ST-C-AC-4	○
	言語聴覚療法臨床実習	言語聴覚療法臨床実習Ⅰ	○	○	○	○	○	1	ST-C-PR-2	○	
		言語聴覚療法臨床実習Ⅱ	○	○	○	○	○	3	ST-C-PR-3	○	
言語聴覚療法臨床実習Ⅲ		○	○	○	○	○	16	ST-C-PR-4	○		
展開科目	言語聴覚療法展開科目群	地域福祉活動論			○	○	○	1	ST-T-LE-1	○	
		マンガ概論				○	○	○	2	ST-T-LE-1	○
		マンガ基礎実習		○	○	○	○	1	ST-T-AC-1		
		活字デザイン論			○	○	○	2	ST-T-LE-1		
		視覚デザイン概論			○	○	○	2	ST-T-LE-2		
		カラーコミュニケーション概論			○	○	○	2	ST-T-LE-2	○	
		視覚伝達デザイン論			○	○	○	2	ST-T-LE-2	○	
		情報メディア学入門			○	○	○	2	ST-T-LE-2	○	
		広告論			○	○	○	2	ST-T-LE-3		
		企業広報活動論			○	○	○	2	ST-T-LE-3		
		広告デザイン論			○	○	○	2	ST-T-LE-3		
		総合科目	応用言語聴覚学	言語聴覚療法地域支援実習	○	○	○	○	○	1	ST-S-AC-4
応用言語聴覚学演習	○			○	○	○	○	2	ST-S-AC-4	○	
言語聴覚療法総合演習Ⅰ	○			○	○	○	○	1	ST-S-AC-4	○	
言語聴覚療法総合演習Ⅱ	○			○	○	○	○	1	ST-S-AC-4	○	
言語聴覚療法総合演習Ⅲ	○			○	○	○	○	1	ST-S-AC-4	○	

区分	科目名	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	単位数	ナンバリング	主要授業科目
基礎科目	初年次教育 新入生入門セミナー	○	○			○	1	CO-A-AC-1	○
	人間の探求 心理学	○		○	○		1	CO-A-LE-1	○
		○		○	○		2	CO-A-LE-1	○
		○		○	○		2	CO-A-LE-2	○
		○		○	○		1	CO-A-LE-1	○
		○	○	○	○		1	CO-A-AC-1	○(P・O)
	社会の探求 コミュニケーション論	○	○	○			1	CO-A-LE-1	○
		○		○		○	1	CO-A-LE-1	
		○		○	○		1	CO-A-LE-1	
		○		○	○		1	CO-A-LE-1	
	地域の探求 地域課題研究Ⅰ	○		○	○	○	1	CO-A-LE-2	○
		○	○	○	○	○	2	CO-A-AC-3	○
			○	○	○		1	CO-A-AC-1	
			○	○	○		1	CO-A-AC-1	○(S)
	自然の探求 生物学	○		○	○		1	CO-A-LE-1	
		○		○	○		1	CO-A-LE-1	
		○	○	○	○		1	CO-A-AC-1	○
		○	○	○			1	CO-A-AC-1	○
	言語の探求 英語	○	○	○			2	CO-A-LE-1	○
		○	○	○			1	CO-A-LE-1	
		○	○	○			1	CO-A-LE-1	
		○	○	○			1	CO-A-LE-1	
		○	○	○			1	CO-A-LE-1	○(S)
職業専門科目	基礎医学 解剖学Ⅰ(筋・骨格系)	○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(P・O)
		○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(P・O)
		○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(S)
		○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(P・O)
		○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(P・O)
		○	○	○	○		1	CO-B-AC-1	○(P・O)
		○		○	○		1	CO-B-LE-1	○(P・O)
		○	○	○	○		1	CO-B-AC-1	○(P・O)
		○		○	○		1	CO-B-LE-1	○(P・O)
	臨床医学 医学総論	○		○	○		1	CO-B-LE-1	○(S)
		○		○	○		1	CO-B-LE-1	○
		○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(P・O)
		○		○	○		1	CO-B-LE-2	○(S)
		○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(P・O)
		○		○	○		2	CO-B-LE-2	○
		○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(P)
		○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(O)
		○		○	○		1	CO-B-LE-2	○(S)
		○		○	○		1	CO-B-LE-2	○
		○		○	○	○	1	CO-B-LE-2	○(P・O)
		○		○	○	○	1	CO-B-LE-3	○(P・O)
		○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(S)
		○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(S)
	心の働き 臨床心理学A	○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(P)
		○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(O)
		○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(S)
		○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(S)
		○		○	○		1	CO-B-LE-1	○(S)
		○		○	○	○	1	CO-B-LE-2	○(S)
		○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(S)
	言語とコミュニケーション 音声学	○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(S)
		○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(S)
		○		○	○		2	CO-B-LE-1	○(S)
		○		○	○		2	CO-B-LE-2	○(S)
		○	○	○	○	○	1	CO-B-AC-3	○(S)
	福祉の理念 リハビリテーション概論	○	○	○	○		2	CO-B-LE-1	○(P・O)
		○	○	○	○		2	CO-B-LE-3	○(P・O)
		○	○	○	○		1	CO-B-LE-1	○(S)

区分		科目名	DP・P①	DP・P②	DP・P③	DP・P④	DP・P⑤	単位数	ナンバリング	主要授業科目
職業専門科目	専門基礎科目 (理学療法学専攻)	基礎理学療法学	○	○	○			1	PT-C-LE-1	○
		理学療法概論演習	○	○	○	○		1	PT-C-AC-1	○
		理学療法基礎セミナー	○	○	○		○	1	PT-C-AC-1	○
		理学療法セミナーⅠ(PBL)	○	○	○	○		1	PT-C-AC-1	○
		理学療法セミナーⅡ(PBL)	○	○	○	○		1	PT-C-AC-2	○
		臨床運動学演習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		理学療法管理学	○		○		○	2	PT-C-LE-3	○
		理学療法評価学	○		○	○	○	1	PT-C-LE-2	○
		理学療法測定実習Ⅰ	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		理学療法測定実習Ⅱ	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
	専門基礎科目 (理学療法学専攻)	理学療法検査実習Ⅰ	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		理学療法検査実習Ⅱ	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		電気診断学	○		○	○	○	1	PT-C-LE-3	○
	専門基礎科目 (理学療法学専攻)	運動療法学	○		○	○	○	2	PT-C-LE-2	○
		運動療法学実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-2	○
		理学療法日常生活活動学実習	○	○	○	○	○	2	PT-C-AC-2	○
		物理療法学実習	○	○	○	○	○	2	PT-C-AC-2	○
		呼吸系理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		循環系理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		代謝系理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		神経系理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		神経筋系理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		運動器系理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		発達系理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		老年期理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		義肢装具学演習	○		○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		予防理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		臨床理学療法技法演習(PBL)	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		スポーツ障害理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		脳障害理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
		急性期理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
	学地域療法	地域理学療法学	○		○	○	○	2	PT-C-LE-2	○
		地域理学療法実習	○	○	○	○	○	1	PT-C-AC-3	○
	臨床実習法	理学療法臨床実習Ⅰ(見学実習)	○	○	○	○	○	2	PT-C-PR-2	○
		理学療法臨床実習Ⅱ(評価実習)	○	○	○	○	○	4	PT-C-PR-3	○
		理学療法臨床実習Ⅲ(総合実習)	○	○	○	○	○	14	PT-C-PR-4	○
展開科目	理学療法展開科目群	スポーツ心理学	○		○	○	○	2	PT-T-LE-2	○
		生涯スポーツ論	○		○	○	○	2	PT-T-LE-1	○
		スポーツサポート演習	○	○	○	○	○	2	PT-T-AC-3	○
		学校・産業保健論	○		○	○	○	2	PT-T-LE-2	○
		コンディショニング論	○	○	○	○	○	2	PT-T-LE-2	○
		経営組織論			○	○	○	2	PT-T-LE-3	○
		マーケティング論			○	○	○	2	PT-T-LE-3	○
		スポーツトレーニング論	○	○	○	○	○	2	PT-T-LE-3	○
		経営管理論			○	○	○	2	PT-T-LE-2	○
		起業論			○	○	○	2	PT-T-LE-3	○
総合科目	応用理学療法学	理学療法地域支援実習	○	○	○	○	○	1	PT-S-AC-4	○
		応用理学療法実習	○	○	○	○	○	2	PT-S-AC-4	○
		理学療法総合演習Ⅰ(健康増進)	○	○	○	○	○	1	PT-S-AC-4	○
		理学療法総合演習Ⅱ(介護予防)	○	○	○	○	○	1	PT-S-AC-4	○
		理学療法総合演習Ⅲ(発達支援)	○	○	○	○	○	1	PT-S-AC-4	○

区分	科目名	DP・O①	DP・O②	DP・O③	DP・O④	DP・O⑤	単位数	ナンバリング	主要授業科目
職業専門科目 (作業療法学専攻)	作業療法学 基礎	作業療法学概論	○	○	○		1	OT-C-LE-1	○
		生活活動と障害演習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-1	○
		基礎作業学実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		応用作業学実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		作業療法セミナー演習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-1	○
	作業療法学 評価	作業療法管理学	○		○	○	2	OT-C-LE-3	○
		基礎作業療法評価学	○		○	○	2	OT-C-LE-2	○
		作業療法評価実習Ⅰ(身体系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		作業療法評価実習Ⅱ(精神・認知系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		作業療法評価実習Ⅲ(発達系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
	作業療法学 治療	身体障害作業療法学	○		○	○	2	OT-C-LE-2	○
		精神障害作業療法学	○		○	○	2	OT-C-LE-2	○
		老年期障害作業療法学	○		○	○	2	OT-C-LE-3	○
		発達障害作業療法学	○		○	○	2	OT-C-LE-2	○
		作業療法日常生活活動学	○		○	○	1	OT-C-LE-2	○
		日常生活支援作業療法実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-2	○
		機能代償支援作業療法実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		身体障害作業療法実習Ⅰ(中枢神経系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		身体障害作業療法実習Ⅱ(脊髄・運動器系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		身体障害作業療法実習Ⅲ(内部系)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		精神障害作業療法実習Ⅰ	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		精神障害作業療法実習Ⅱ	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		老年期障害作業療法実習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		発達障害作業療法実習Ⅰ	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		発達障害作業療法実習Ⅱ	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-1	○
		臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL)	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
	作業療法学 地域	地域作業療法学	○		○	○	2	OT-C-LE-2	○
		地域作業療法学演習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
		就労支援作業療法演習	○	○	○	○	1	OT-C-AC-3	○
	作業療法学 臨床	作業療法臨床実習Ⅰ(見学実習)	○	○	○	○	1	OT-C-PR-1	○
		作業療法臨床実習Ⅱ(評価実習)	○	○	○	○	6	OT-C-PR-3	○
		作業療法臨床実習Ⅲ(総合実習)	○	○	○	○	16	OT-C-PR-4	○
		地域作業療法臨床実習	○	○	○	○	1	OT-C-PR-2	○
展開科目	作業療法学 展開科目群	まちづくりプロジェクト論	○	○	○	○	2	OT-T-LE-3	○
		子ども未来論	○	○	○	○	2	OT-T-LE-2	○
		レジャーサポート論		○	○	○	2	OT-T-LE-2	○
		地域ネットワーク論		○	○	○	2	OT-T-LE-2	○
		犯罪と社会復帰支援	○		○	○	2	OT-T-LE-3	○
		災害と生活支援演習			○	○	2	OT-T-AC-3	○
		特別支援教育論	○		○	○	2	OT-T-LE-3	○
		ICT技術論	○		○	○	2	OT-T-LE-3	○
		ジョブサポート演習	○	○	○	○	2	OT-T-AC-2	○
		ベンチャービジネス論		○	○	○	2	OT-T-LE-3	○
総合科目	応用作業療法学	作業療法地域支援実習	○	○	○	○	1	OT-S-AC-4	○
		応用作業療法学演習	○	○	○	○	2	OT-S-AC-4	○
		作業療法総合演習Ⅰ(生活支援)	○	○	○	○	1	OT-S-AC-4	○
		作業療法総合演習Ⅱ(就労支援)	○	○	○	○	1	OT-S-AC-4	○
		作業療法総合演習Ⅲ(地域支援)	○	○	○	○	1	OT-S-AC-4	○

区分		科目名	DP・S①	DP・S②	DP・S③	DP・S④	DP・S⑤	単位数	ナンバリング	主要授業科目
職業専門科目 (言語聴覚学専攻)	基礎言語聴覚療法学	言語聴覚障害学総論	○	○	○	○		2	ST-C-LE-1	○
		言語聴覚療法管理学	○		○		○	2	ST-C-LE-3	○
	失語・高次脳機能障害学	失語症学	○		○	○		1	ST-C-LE-2	○
		高次脳機能障害学	○		○	○		1	ST-C-AC-2	○
		失語症検査・評価実習	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
		高次脳機能障害検査・評価実習	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-2	○
		失語・高次脳機能障害支援実習	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
		失語・高次脳機能障害技法実習(PBL)	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
		言語発達障害学	言語発達障害学	○		○	○		2	ST-C-LE-2
	言語発達障害検査実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-2	○
	言語発達障害評価実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
	言語発達障害支援実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
	言語発達障害技法実習(PBL)		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
	発声発語・嚥下障害学	発声発語障害学	○		○	○		2	ST-C-LE-2	○
		摂食嚥下障害学	○		○	○		2	ST-C-LE-2	○
		発声発語・摂食嚥下障害検査実習	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-2	○
		発声発語・摂食嚥下障害評価実習	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
		発声発語・摂食嚥下障害支援実習	○	○	○	○	○	2	ST-C-AC-3	○
		発声発語・摂食嚥下障害技法実習(PBL)	○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
		聴覚障害学	聴覚障害学	○		○	○		2	ST-C-LE-2
	聴覚検査学		○		○	○	○	2	ST-C-LE-2	○
	聴覚検査実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-LE-2	○
	補聴器・人工内耳学		○		○	○		1	ST-C-LE-3	○
	聴覚リハビリテーション実習		○	○	○	○	○	1	ST-C-AC-3	○
	地域言語聴覚療法学	地域言語聴覚療法学	○		○	○	○	1	ST-C-LE-3	○
	療言実法語習臨聴床覚	言語聴覚療法臨床実習Ⅰ(見学実習)	○	○	○	○	○	1	ST-C-PR-2	○
		言語聴覚療法臨床実習Ⅱ(評価実習)	○	○	○	○	○	3	ST-C-PR-3	○
		言語聴覚療法臨床実習Ⅲ(総合実習)	○	○	○	○	○	17	ST-C-PR-4	○
展開科目	言語聴覚療法展開科目群	メディアと子どもの未来			○	○	○	2	ST-T-LE-3	○
		マンガコミュニケーション実習		○	○	○	○	1	ST-T-AC-1	
		活字デザイン論			○	○	○	1	ST-T-LE-2	
		色彩ユニバーサルデザイン論			○	○	○	2	ST-T-LE-2	
		コミュニケーションサポート演習			○	○	○	2	ST-T-AC-1	○
		情報メディア学入門			○	○	○	2	ST-T-LE-3	
		子どもの学びの多様化			○	○	○	2	ST-T-LE-3	○
		アナウンスと伝達スキル			○	○	○	2	ST-T-LE-3	
		アドバンステクノロジーの活用			○	○	○	2	ST-T-LE-3	○
		視聴覚障害支援論			○	○	○	2	ST-T-LE-3	○
地域福祉概論			○	○	○	2	ST-T-LE-3	○		
総合科目	応用言語聴覚学	言語聴覚療法地域支援実習	○	○	○	○	○	1	ST-S-AC-4	○
		応用言語聴覚学演習	○	○	○	○	○	2	ST-S-AC-4	○
		言語聴覚療法総合演習Ⅰ(子ども)	○	○	○	○	○	1	ST-S-AC-4	○
		言語聴覚療法総合演習Ⅱ(おとな)	○	○	○	○	○	1	ST-S-AC-4	○
		言語聴覚療法総合演習Ⅲ(高齢者)	○	○	○	○	○	1	ST-S-AC-4	○

ナンバリングおよび主要授業科目について

・ナンバリングとは

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。

受講する科目がどのような水準であるのかなどを示し、履修の手助けをするものです。

本学では、すべての授業科目にナンバリングを付し、シラバスに記載しています。

・ナンバリングの構成について

各授業科目に付されるナンバリングは、下記により構成されています。

①共通科目、各専攻科目の別

②教育の内容

③講義形態

④対象学年（開講年次）

① ② ③ ④
例) CO - A - LE - I

①共通科目、各専攻科目の別：アルファベット 2 文字で示す。

CO	共通科目
PT	理学療法学専攻科目
OT	作業療法学専攻科目
ST	言語聴覚学専攻科目

②教育の内容（目標）：アルファベットで示す。

A	基礎科目 科学的・論理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動する能力を培う。生命倫理、人の尊厳について幅広く理解する。国際化及び情報化社会に対応できる能力を培う。患者・利用者等との良好な人間関係の構築を目的に、人間関係論、コミュニケーション論等を学ぶ。
B	専門支持科目 人体の構造と機能及び心身の発達の知識を系統的に学ぶ。健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療・回復過程に関する知識を学ぶ。心の働き、言語とコミュニケーション、保健医療福祉、リハビリテーションの理念、社会保障と教育、他職種連携等について学ぶ。
C	専門基幹科目 専門支持科目をもとに、各専攻に関する管理学、評価学、治療学、地域支援、臨床実習等について、知識と技術を学び、実践能力を培う。

T	展開科目 各専攻に関連した他分野について学び、社会の変化に対応し創造力を育成する能力を培う。
S	総合科目 各専攻にて1～3年次までに修得した知識・技能等を総合し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を培う。

③講義形態：講義、演習、実験・実習、臨床実習をアルファベット2文字で示す。

LE	講義
AC	演習、実験・実習
PR	臨床実習

④対象学年（開講年次）：数字1文字で対象学年を示す。

1	1年次開講
2	2年次開講
3	3年次開講
4	4年次開講

・主要授業科目とは

学位を取得するにあたり、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を踏まえ、達成すべき能力を育成するために必要な科目です。

本学では、専門職として達成すべき能力を育成するために必要な科目を主要授業科目とし、該当する科目をシラバスに記載しています。